



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月1日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	17,219	16.3	1,849	27.3	1,869	27.1	1,450	68.1
29年3月期第2四半期	14,801	22.2	1,452	13.4	1,471	12.7	862	△10.7

(注)包括利益 30年3月期第2四半期 1,454百万円 (72.4%) 29年3月期第2四半期 843百万円 (△12.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	46.61	—
29年3月期第2四半期	27.72	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	19,649	13,410	68.2	430.93
29年3月期	19,500	12,734	65.3	409.20

(参考)自己資本 30年3月期第2四半期 13,410百万円 29年3月期 12,734百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,740	12.9	4,670	21.4	4,700	20.6	3,300	28.3	106.04

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	31,121,520 株	29年3月期	31,121,520 株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	1,636 株	29年3月期	1,625 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	31,119,886 株	29年3月期2Q	31,119,915 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな景気回復の動きが見られた一方で、個人消費は、依然として低迷した状態が続いております。また、消費者の商品・サービスに対する選別の目が一段と厳しさが増す中、販売競争が激化するなど、引き続き厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは「ダブルエスアール (WSR) ※」の経営スローガンのもと、『超現場主義』を実践テーマに加え、プロフィット部門であります製造ライン、店舗、営業部門における現場中心の経営スタイルに一層磨きをかけ、商品力、販売力・営業力、売場力の更なる向上に努めてまいりました。また、「インバウンド対策の強化」、「海外展開」、「首都圏でのWSR化展開の推進」、「プレミアム・ギフトスイーツの創造と育成」の4つの重点施策を引き続き注力してまいりました。更に、首都圏での経営基盤をより一層強固なものとするべく、平成29年4月1日付で株式会社シュクレイを存続会社とし、株式会社フランセを消滅会社とする吸収合併によるグループ再編を実施いたしました。

これらの取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,219百万円（前年同期比16.3%増）、営業利益は1,849百万円（前年同期比27.3%増）、経常利益は1,869百万円（前年同期比27.1%増）となりました。また、固定資産売却益の特別利益計上、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が前年同期に比べ減少した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,450百万円（前年同期比68.1%増）となりました。

※ WSR (ダブルエスアール) とは、グループ経営基本方針として平成27年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常 (超感動) を提供する」という意味が込められています。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、平成29年4月1日付で実施した連結子会社間の吸収合併に伴い、従来、報告セグメントとしておりました「フランセ」を第1四半期連結会計期間より「シュクレイ」に統合いたしており、以下の記載における前第2四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分方法により作成した数値を使用しております。

#### ① ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、商品面では主力商品の「ドゥーブルフロマージュ」及び「小樽色内通り フロマージュ」の販売強化に加え、新商品「テノワール」の拡販に注力いたしました。売上面では、インバウンド対策として注力しております国際線ターミナルでの販売が好調に推移し、また、新規出店効果などにより道内店舗の売上が伸びました。その結果、売上高は5,096百万円（前年同期比19.5%増）、営業利益は498百万円（前年同期比17.9%増）となりました。

#### ② 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、売上面では、焼き菓子類を中心にグループ向け及び代理店向けが堅調に推移しました。生産面では、商品開発の強化に向け、新たな製造ラインを設置し、製品ラインナップの充実を図りました。その結果、売上高は5,319百万円（前年同期比7.5%増）となり、前年同期を上回りました。一方、利益面では、減価償却費の増加などにより製造原価率が増加したことに加え、人件費の増加などにより、営業利益は581百万円（前年同期比8.4%減）となり、前年同期を下回りました。

#### ③ シュクレイ

シュクレイは、統合メリットを最大限発揮させるべく組織体制の見直しを行い、販売面では、「フランセ」ブランドの販売チャネルの絞り込みを実施いたしました。また、生産面では、製造ラインの新設及び改修を行い、商品の一部をグループ間仕入から自社工場生産に切り替えるなど生産体制の改善に注力しました。売上面では、主力ブランドの積極的なプロモーションにより認知度が向上し、好調に推移いたしました。その結果、売上高は5,029百万円（前年同期比28.3%増）、営業利益は343百万円（前年同期比341.9%増）となりました。

#### ④ 販売子会社

販売子会社は、駅、空港、SA・PAなど交通拠点チャネルを中心に、新製品及び主力商品のコーナー化展開を推進し、堅調に推移しました。その結果、売上高は2,758百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益は228百万円（前年同期比26.6%増）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、売上面では、長崎・佐世保地区は、主力商品「九十九島せんべい」の販売強化などにより熊本地震の影響による低迷から回復基調にあるものの、福岡地区が、福岡空港改装工事に伴う売場縮小などにより低迷しました。新業態のフレンチトースト専門店「Ivorish (アイボリッシュ)」は、認知度向上に向け首都圏を中心に催事展開を推進しました。その結果、売上高は1,648百万円（前年同期比2.3%増）、営業損失は104百万円（前年同期は営業損失19百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれており、売上高は175百万円（前年同期比55.8%増）となり、営業損失は30百万円（前年同期は営業損失38百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、19,649百万円となり、前連結会計年度末に比べ149百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少（583百万円）、土地の減少（227百万円）、流動資産におけるその他の増加（153百万円）、商品及び製品の増加（196百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（218百万円）、機械装置及び運搬具（純額）の増加（324百万円）などの要因によるものです。

負債は6,238百万円となり、前連結会計年度末に比べ527百万円減少いたしました。主な要因は、流動負債におけるその他の減少（314百万円）、未払法人税等の減少（138百万円）、長期借入金の減少（140百万円）、賞与引当金の増加（97百万円）などの要因によるものです。

純資産は13,410百万円となり、前連結会計年度末に比べ676百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（1,450百万円）、配当金の支払いによる減少（777百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.9ポイント増加の68.2%となり、1株当たり純資産は430円93銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）残高は、前連結会計年度末に比べ583百万円減少し、2,968百万円（前年同期比3.3%減）となりました。

当第2四半期連結結果計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、960百万円（前年同期比18.4%減）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益1,939百万円、減価償却費477百万円の計上及び賞与引当金の増加額97百万円などの増加要因があった一方、法人税等の支払額808百万円、その他の減少額440百万円、たな卸資産の増加額267百万円などの減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、603百万円（前年同期比86.0%増）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出833百万円の減少要因があった一方、有形固定資産の売却による収入303百万円などの増加要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、940百万円（前年同期比9.0%減）となりました。

主な要因は配当金の支払額777百万円、長期借入金の返済額152百万円などの要因によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、上期は、期初予想を上回ったものの、事業環境は依然として不透明な状況が見込まれるため、下期予想は売上面・利益面ともに期初予想を据え置き、第2四半期累計期間の業績を加味し、修正いたしております。詳細は、本日開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,551,463	2,968,291
受取手形及び売掛金	3,592,493	3,553,804
商品及び製品	1,003,805	1,200,703
仕掛品	74,161	113,703
原材料及び貯蔵品	453,360	484,814
その他	784,244	937,719
貸倒引当金	△4,276	△4,726
流動資産合計	9,455,250	9,254,308
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,333,555	3,552,443
機械装置及び運搬具(純額)	1,748,667	2,073,533
工具、器具及び備品(純額)	374,008	379,705
土地	3,084,438	2,857,139
リース資産(純額)	8,380	7,037
建設仮勘定	52,453	53,551
有形固定資産合計	8,601,501	8,923,408
無形固定資産	103,149	107,891
投資その他の資産		
その他	1,365,774	1,388,202
貸倒引当金	△25,533	△24,666
投資その他の資産合計	1,340,241	1,363,536
固定資産合計	10,044,891	10,394,835
資産合計	19,500,141	19,649,143
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,246,124	1,180,212
1年内返済予定の長期借入金	318,063	305,396
未払法人税等	819,118	680,969
賞与引当金	590,083	687,755
ポイント引当金	18,414	16,365
その他	1,735,254	1,420,977
流動負債合計	4,727,056	4,291,674
固定負債		
長期借入金	693,142	552,944
退職給付に係る負債	1,156,787	1,214,162
その他	188,945	179,840
固定負債合計	2,038,874	1,946,946
負債合計	6,765,930	6,238,620

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	10,161,317	10,833,712
自己株式	△835	△866
株主資本合計	12,701,443	13,373,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,457	39,256
為替換算調整勘定	△4,334	△5,821
退職給付に係る調整累計額	3,645	3,281
その他の包括利益累計額合計	32,768	36,716
純資産合計	12,734,211	13,410,523
負債純資産合計	19,500,141	19,649,143

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	14,801,345	17,219,107
売上原価	6,691,719	7,644,547
売上総利益	8,109,626	9,574,560
販売費及び一般管理費	6,656,986	7,725,305
営業利益	1,452,640	1,849,255
営業外収益		
受取利息	388	560
受取配当金	2,884	2,543
受取地代家賃	9,592	9,505
持分法による投資利益	5,946	—
その他	13,019	22,351
営業外収益合計	31,829	34,959
営業外費用		
支払利息	6,583	2,646
持分法による投資損失	—	5,760
その他	6,629	6,241
営業外費用合計	13,212	14,647
経常利益	1,471,257	1,869,567
特別利益		
固定資産売却益	513	75,463
特別利益合計	513	75,463
特別損失		
固定資産売却損	409	—
固定資産除却損	12,392	6,007
投資有価証券売却損	29,342	—
特別損失合計	42,143	6,007
税金等調整前四半期純利益	1,429,627	1,939,023
法人税等	566,866	488,631
四半期純利益	862,761	1,450,392
親会社株主に帰属する四半期純利益	862,761	1,450,392



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	862,761	1,450,392
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,042	5,799
為替換算調整勘定	△10,474	△316
退職給付に係る調整額	—	△364
持分法適用会社に対する持分相当額	466	△1,171
その他の包括利益合計	△19,050	3,948
四半期包括利益	843,711	1,454,340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	843,711	1,454,340

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,429,627	1,939,023
減価償却費	397,496	477,209
投資有価証券売却損益(△は益)	29,342	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△9,368	△422
賞与引当金の増減額(△は減少)	62,740	97,672
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	48,512	57,375
受取利息及び受取配当金	△3,272	△3,103
支払利息	6,583	2,646
持分法による投資損益(△は益)	△5,946	5,760
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,449	△2,049
固定資産売却損益(△は益)	△104	△75,463
固定資産除却損	12,392	6,007
売上債権の増減額(△は増加)	251,489	38,762
たな卸資産の増減額(△は増加)	△115,434	△267,874
仕入債務の増減額(△は減少)	69,956	△66,119
その他	△186,542	△440,540
小計	1,989,920	1,768,884
利息及び配当金の受取額	3,272	3,103
利息の支払額	△7,484	△2,646
法人税等の支払額	△808,717	△808,867
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,176,991	960,474
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	200,000	—
投資有価証券の取得による支出	△1,325	—
投資有価証券の売却による収入	138,947	13
有形固定資産の取得による支出	△583,315	△833,185
有形固定資産の売却による収入	1,495	303,781
無形固定資産の取得による支出	△10,669	△18,292
敷金及び保証金の差入による支出	△21,740	△27,516
敷金及び保証金の回収による収入	30,047	5,758
その他	△78,080	△34,235
投資活動によるキャッシュ・フロー	△324,640	△603,676
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△200,000	—
長期借入金の返済による支出	△200,006	△152,865
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△2,993	△1,856
自己株式の取得による支出	—	△31
配当金の支払額	△622,398	△777,997
その他	△7,500	△7,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,032,897	△940,249
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,345	279
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△184,891	△583,172
現金及び現金同等物の期首残高	3,253,975	3,551,463
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,069,084	2,968,291

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	シュクレイ	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,809,915	3,010,272	3,920,963	2,496,392	1,451,744	14,689,286
セグメント間の内部売上高又は振替高	453,707	1,938,002	—	8,547	160,198	2,560,454
計	4,263,622	4,948,274	3,920,963	2,504,939	1,611,942	17,249,740
セグメント利益(△は損失)	423,179	634,971	77,800	180,462	△19,582	1,296,830

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	112,059	14,801,345	—	14,801,345
セグメント間の内部売上高又は振替高	455	2,560,909	△2,560,909	—
計	112,514	17,362,254	△2,560,909	14,801,345
セグメント利益(△は損失)	△38,440	1,258,390	194,250	1,452,640

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額194,250千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額503,814千円、セグメント間取引消去額8,896千円、たな卸資産の調整額△16,207千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△302,253千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	シュクレイ	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	4,622,456	3,224,032	4,994,875	2,742,773	1,459,658	17,043,794
セグメント間の内部売上高又は振替高	473,619	2,095,292	34,471	15,636	189,042	2,808,060
計	5,096,075	5,319,324	5,029,346	2,758,409	1,648,700	19,851,854
セグメント利益(△は損失)	498,812	581,576	343,833	228,460	△104,858	1,547,823

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	175,313	17,219,107	—	17,219,107
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	2,808,060	△2,808,060	—
計	175,313	20,027,167	△2,808,060	17,219,107
セグメント利益(△は損失)	△30,505	1,517,318	331,937	1,849,255

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額331,937千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額614,562千円、セグメント間取引消去額14,517千円、たな卸資産の調整額15,429千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△312,571千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

平成29年4月1日付で連結子会社であります株式会社シュクレイは、連結子会社であります株式会社フランセを吸収合併いたしました。これに伴い、従来、報告セグメントとしておりました「フランセ」を第1四半期連結会計期間より「シュクレイ」に統合いたしており、前第2四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分方法により作成した数値を使用しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。